



【NPO 法人アフリカヘリテイジコミティー 理事長 トニー・ジャスティスよりご挨拶】

はじめまして。「ノヴィーニエこども食堂・こども寺子屋」を運営している NPO 法人アフリカヘリテイジコミティーの理事長トニー・ジャスティスです。私はアフリカのガーナ出身で、20 年以上日本に暮らしています。これまで、本当にたくさんの方々助けられ、支えられてここまでやってきました。そんなお世話になった日本の皆さまへ、何か自分にできるかたちで恩返しをしたいと思い、アフリカヘリテイジコミティーを立ち上げ、活動をはじめました。

活動のひとつは、私のルーツであるアフリカの文化を伝えることです。日本では、まだアフリカの文化について、よく理解されているとは言えません。アフリカには、伝統的に伝わるすばらしい文化<アフリカヘリテイジ>がたくさんあります。そのすばらしさを少しでも日本の皆さまに知ってもらい、理解を深めてもらうことは、日本の将来の発展にもつながっていくことと思いました。そこで、アフリカヘリテイジコミティーではアフリカ文化やアフリカにルーツをもつ世界の国々の文化 をテーマにしたフェスティバルを定期的開催しています。特に、日本の未来を担う子供たちには、こうしたイベントでの異文化体験を将来に役立てて、グローバル化する世界にでて活躍していただきたいと思います。

もうひとつは、未来を担う子供たちの健全育成に貢献することです。社会には様々な問題があります。その社会を変える ためには、子供たちをきちんと育て教育していくことが、最も重要だからです。私が日本に長く暮らしていて、アフリカに帰るたびに、いつも心が痛むことがあります。それは、ストリートチルドレンの子供たちの存在です。アフリカには、家がなく道端で寝起きしている子供たちがたくさんいます。彼らは経済的な事情から学校に通うこともできません。この子供たちを救うために、何かできることはないだろうか、これまでずっと考えてきました。そして立ち上げたのが「学校をつくろう プロジェクト」です。この子供たちが将来生きていくために一番大切なことは教育です。でもそのまえにまず、住むところがあり、着る服があり、食べるものがあり、医療を受けられる環境が必要です。この子供たちの生活を保護し、守らなければ いけません。なので「学校をつくろうプロジェクト」では、ただ単に学校をつくるだけでなく、養護施設を兼ねた学校をつくることを目標としています。

私は子供たちが大好きで、一人でも多くの子供に笑顔になってもらいたいと思っています。それはアフリカの子供たちだけでなく、日本の子供たちに対しても同じです。最近、日本では満足な食事をとることができない子供や、一人で食事をとる子供が増えているということを知って、とてもショックを受けました。食べることは生きることの基本です。そして、誰かと一緒に食事をするこも、子供の成長には欠かせない大切なことです。アフリカでは、家族や近所の人たちが集まって、みんなでひとつの鍋に手をつこんでごはんを食べます。食事の場で、大人たちが色んなおとぎばなしを話してくれたり、太鼓に合わせて歌を歌ったり、踊りを踊ったり、アフリカでは、食事はとても楽しい時間であり、文化を次の世代に伝える大切な時間でもあります。

日本の子供たちにも、みんなでワイワイと楽しく、おいしくご飯を食べられて笑顔になれる場所をつくりたいと思い、「ノヴィーニエこども食堂」をオープンすることを決めました。「ノヴィーニエ」とは、私の出身、エヴェという部族のことばで「兄弟・仲間」という意味です。地域の子供たちが、家族のように集まって食べたり学んだりできる場所にしたいと思っています。同時に、アフリカ文化をはじめとした異文化体験の機会もつくり、国際交流の場にもしていきたいと思っています。ここでは、国籍を問わず、どんな子供でも歓迎します。

最近の日本では、核家庭化が進み、子供たちが外にでて自然のなかで過ごす機会も減り、限られた人間関係のなかで育つ子供が増えてきています。スマホをつかってやりとりするなど、直接会話する機会も減り、子供たちのコミュニケーション能力が育ちにくい環境になってきたといわれています。子供たちのコミュニケーション能力を伸ばすためには、様々なコミュニティで、自分とは環境の異なる人々と沢山出会い、交流することが大切だと思います。今の子供たちは大人になったら、グローバル化する社会のなかで、高いコミュニケ

ーション能力や国際的な感覚を求められてきます。「ノヴィーニエこども食堂・こども寺子屋」では、学校や年齢、国籍の異なる子供たちが集まり、様々な経験・異文化体験ができる場所です。地域の子供たちが、伸び伸びと成長していくことに少しでも貢献できたらと思っています。

こうした活動が、特に貧困家庭の子供達、ひとり親家庭の子供達、留守家庭などで、普段一人で食事をするこの多い子供達、地域社会から孤立しがちな外国人家庭の子供達、学校になじむことのできない子供達など、様々なバックグラウンドをもつ子供達の支援につながることを目指しています。

こども食堂・こども寺子屋を運営していくためには、皆さまの支えが必要です。皆さま一人ひとりのできるかたちで、ぜひご支援をお願い致します。地域の大人たち、みんなが関わって、一緒に子供たちを育てていきましょう。

<アフリカヘリテイジコミティーの活動内容>

1. 日本でのアフリカやアフリカにルーツをもつ文化をテーマにした国際文化交流事業(祭典)の開催
*2016年開催のアフリカ日比谷フェスティバルでは、5万6千人の来場客を記録しました。
2. アフリカでの学校(孤児院)建設計画「学校をつくろうプロジェクト」への取り組み(アフリカ)
*最終的には、アフリカ大陸の各地域(西アフリカ・北アフリカ・東アフリカ・中央アフリカ・南アフリカ)に1施設の設立を目指しています。
3. 日本の貧困家庭や孤食の子供たち、外国人家庭の子供たちのための食事と学習・居場所の支援
「こども食堂・こども寺子屋」の運営(日本)
4. アフリカでの日本文化紹介・日本への観光客誘致のためのイベント事業の開催(予定)
5. 日本企業のアフリカ進出コーディネート(今後展開していく予定です。)

<アフリカヘリテイジコミティーの活動趣旨>

1. アフリカ及びアフリカにルーツをもつ文化への理解の促進、国際文化交流
2. 伝統文化の継承
3. 子供の健全育成
 - ◇ 日本の子供たちに異文化体験と学習の機会をつくる(国際的な人材の育成)
 - ◇ 日本に暮らすアフリカにつながりをもつ子供たちに自分のルーツである文化に触れられる場をつくる
 - ◇ アフリカの子供たちの養護と教育支援(学校・孤児院の建設)
 - ◇ 日本に暮らす子供たち(外国人家庭の子供も含む)への地域交流の場所・居場所の提供(こども食堂・寺子屋)
4. 地域の活性化・経済観光促進への貢献
5. 多文化共生のできる国際的なまちづくり・社会づくり
6. 日本・アフリカのビジネス交流の促進
7. 恵まれない環境にある子供たちへの支援・チャリティー活動
 - ◇ アフリカの子供たちの支援計画「学校(孤児院)をつくろうプロジェクト」
 - ◇ 日本の貧困家庭・孤食の子供たち及び外国人家庭の子供たちのための食事と学習、居場所の支援「こども食堂・こども寺子屋」の運営
 - ◇ 日本の被災地の子供達の支援・日本の養護施設の子供たちの支援(寄付)
 - ◇ ジャマイカの養護施設への寄付
8. 助け合う・支えあう社会の仕組みづくり(フェアトレード製品の販売促進)

～下記ウェブサイトをご参照ください。～

●アフリカヘリテイジコミティー公式ウェブサイト: <http://africaheritage.jp>

●イベント情報専用ウェブサイト: <http://africah.web.fc2.com>

●こども食堂・こども寺子屋のウェブサイト: <http://kodomo.novinye.com>